

ドレミの歌

♪女子高生版

登場人物 先生／私立ノストラダムス高校教師・川口

堂上／同校生徒

蓮華／同校生徒

水野／同校生徒

不破／同校生徒

反町／同校生徒

城田／同校生徒

欄橋／納品業者

男子生徒 1

2

学校の廊下。

先生 帚とチリトリで掃除している。

堂上 やってくる。

先生 あ、これは割れてましたの。誰がこんな事するのでしょうか。お高いですよ、窓ガラス。…もうダメでしょうかこの学校も。…生徒の前でした。まああれですわ、この学校がダメになるかならないかは

生徒である皆さんに掛かっていますから。…早くお帰りなさい。

堂上 ……ごきげんよう。

先生 ……ごきげんよう。

先生 上手に去る。

堂上 割れた窓ガラスに近寄り、空を見上げる。

堂上 「なぜ美人はいつもつまらぬ男と結婚するのだろ。賢い男は美人と結婚しないからだ」「女の喜び

は男のプライドを傷つけることである」「女は愛される事を求め、理解されることを求めない」「男の顔は履歴書、女の顔は請求書」「女の

反町 あら、堂上さん。

堂上 ごきげんよう。

反町 ごきげんよう。またお帰りにならないんですか？

堂上 帰りますわ。

反町 どうですか、ご一緒に？

堂上 ……反町さん、

反町 なんです？

堂上 わたくし、お勉強ばかりしていると、なんだかとても、おばさんになったように感じますの。

反町 あら、堂上さんも？

堂上 反町さんも？

反町 来年はお受験ですからね。堂上さんは、どちらに？

堂上 あと二年で、卒業ですわ。

反町 寂しいですね。

堂上 (空を見上げて) この壁、どうしてこんなにお高いのでしょうか。考えた事あります？

反町 うーん、どうしてでしょう。やはりお外は物騒ですから、わたくし達の身の安全を考えての事だと

思いますわ。

堂上 か弱い少女の花園ですものね、我がノストラダムス高校は。

反町 うふふ。さあ帰りましょう。門が閉まってしまいますわ。

堂上 女子校って、もう少しガサツなイメージがあったんですのわたくし。でもこの学校は違ったわ。皆

さんとてもお綺麗な方ばかり。わたくし身が引き締まります。

反町 どうしたんです？そんな事仰るなんて、おかしな堂上さん。

堂上 お菓子は控えているんです。

反町 だから身が引き締まってらっしゃるの？

堂上 うふふ。

反町 さ、帰りましょう。門が閉まると閉じ込められてしまいますわ。

堂上 あなたやつぱりお気づきにならないのね。

反町 何をです？

堂上 わたくしが女子校って言った時、なんにも思わなかった？

反町 え？

堂上 幸せな方。

反町 なんです、嫌な言い方。

堂上 「醜い女はいない。ただ、どうすれば可愛く見えるかを知らない女はいる」

反町 十七世紀フランスのモラリスト、ブリュイエールの言葉ね。わたくしあの人好きじゃないわ。

堂上 この学校、女子校じゃなくってよ。

反町 …え？

堂上 反町さんは、女子校が良くお似合いですわ。

反町 どういう事？女子校じゃない？女子校じゃなかったら、ここはなんですか？

堂上 女子校じゃなかったら、共学に決まっていますわ。なぜならわたくし達が居るんですもの、男子校ではないでしょう。

反町 私、わからないわ、男女共学って何の事かしらうだって居らっしゃらないじゃない、どこにもその、男性の方。

堂上 そつよ。

反町 わからないわ。

蓮華、やってくる。

堂上の姿を見て、無視をして通り過ぎようとする。

反町 あら、蓮華さん。ごきげんよう。

蓮華 ごきげんよう。

反町 ねえ蓮華さん、聞いて下さる？堂上さんがね、おかしい事を仰るのよ、この学校は、女子校じゃなくって男女共学だって仰るのよ。信じられます？だって男性の方なんか居らっしゃらないわよね？という事は、ここはやはり女子校ですわよね？そうですね？そうですね？お野球部もおサッカー部も、女子部しかありませんもの。

城田、上手からやってくる。

ジャージを着ていて、手にはゴム手袋とすっぽんを持っている。

城田 男性用お手洗いありませんわ。

城田、下手に去る。

反町 ということはやっぱり女子校なんじゃありませんの？

蓮華 堂上さんは、男の方とお付き合いしたくてしようがない方だから、みだらな妄想をしているだけでしょ。頭の悪いお話にお付き合いしないで早くお帰った方がよろしいですわ。

反町 そうね、閉じ込められたらまらない。わたくし、以前閉じ込められた事があるんですよ。あれは本当に苦痛、おまけに反省文ですもの。

堂上 男の方とお付き合いしたくてまらない人は蓮華さん、あなたでしよう？仰ってたじゃないの、この学校はわたくし達が入学する前の年まで男子校だったって。それが男女共学になったんだって。

蓮華 それ言ってたのはあなたよ、私は言っていない。

堂上 入学パンフにもちゃんと書いてありました。

蓮華 覚えてないわ、そんな昔の事。

堂上 しばづくれるんじゃないわよ。て事はわたくし達が一年の時、二年三年は男子ばかりだから選り取り見取りじゃねえかって仰ってたじゃないの。

蓮華 そんな獣みたいな言い方止めて下さる。

堂上 たくさんの男子の中に女子がポツンと居たら嫌でも目に付くって、どんな不細工でも可愛く見えるから男の方から寄って来るって、これで夢にまで見た男をとつかえひつかえしていく女になれるって。仰っていたじゃない。

蓮華 それもあなたが言ったのよ獣みたいに。野郎なんて基本おっぱいしか見てねんだから胸さえ強調しとけば大丈夫だろうって、仰っていたのはあなたよ。

堂上 それは確かに申しましたわ、私の言葉よ。

蓮華 そしたら実際入学してみたら周りは女子ばかりで気が抜けてお菓子ばかり食べたからお腹が出て来ちゃってせつかくの胸も強調されなくなつて困つたわって笑いながら話していたじゃないの一年前

堂上 それ私じゃありません絶対に。

蓮華 その証拠にあなた丸々太ってしまったじゃないの。

堂上 私は太っていませんもの。これを太ってるって仰るあなたがやせ過ぎなんじゃないですか？反町

反町 え？

堂上 胸よりお腹が出て来て初めて「あー太ったなあ」って思うのであって私はまだ巨乳の部類ですわ。

反町 ええもう止めて、何気に私が一番傷ついてるんですからね。

堂上 反町さんだってホントはご存知だったでしょ、知っててみんな入学願書出したはず。

反町 ……

蓮華 今さらこんなお話なんの意味があるの？もう帰ります。風紀委員がいっしょやる。

反町 あ、そうね、帰りましょう。

堂上 わたくしは別に風紀を乱している訳じゃないません。一体何を取り締まるって仰るの？ホントお馬鹿なんじゃないかと思っわ学校の…

下手から風紀委員のバッジをつけた水野、やって来る。

堂上 ……方々。

水野 ごきげんよう。

蓮華 ごきげんよう。

反町 ごきげんよう。

堂上 ごきげんよう。

水野 皆さん、こんなところで何してらっしゃるの？

蓮華 ……もう、今帰ろうとしてたところなんです。ごきげんよう。

蓮華、走り去る。

反町 あ、ごきげんよう。

堂上 ごきげんよう！

反町と堂上も後を追う。

水野、黙って割れた窓ガラスを見ている。

しばらくして、三人トボトボと戻って来た。

水野 廊下、走りましたね。

堂上 ……すみません。

水野 これ、誰が割ったの？

堂上 あ、そうなんです、窓ガラスが割れていたんです、それをわたくし掃除していたんです。

水野 ですから？

堂上 ですから…

水野 どんな理由があるろうと今から一時間は校舎からは出られません。

堂上 わたくし、塾があるんです。

水野 ではどうしてさっさとお帰りにならなかったの？

堂上 お腹が、痛くて、生理で、

水野 (手帳を見て) あなたまだでしょ。

反町 そんな事までチェックしてるの？

水野 よく嘘をつきますから、皆さん。

蓮華、下手へ去ろうとする。

水野 レンゲさん、どこへ？

蓮華 ……あ、お手洗いに。

水野 ほらね、お手洗いはそっちじゃないもの。

蓮華 ……みいちゃん、あんたいつからそんな風になったん？

水野 まあ名古屋弁？汚いお言葉。

蓮華 中学の時はそんな風じゃなかったじゃん。もっとなんか可愛い感じだったよもつと。

水野 可愛いとか関係なくないですか？あなた一体何しに来てらっしゃるの学校。

蓮華 髪もパサパサ…、毎週美容院行ってたあなたが。

水野 え、なんの為に美容院行きますの？美容？なにそれ？なんの意味があるんです？

蓮華 じゃあいつそ坊主にすればいいじゃん。

水野 なんて坊主にしなканの？ニコノストラダムス高校なんですけど、ノストラダムス高校になんて坊

主がおるの？

蓮華 キリスト教の学校じゃないでしょ？

水野 だからなんで坊主にしなканのつつつとんの。

蓮華 風紀委員なんだから…

水野 なんて風紀委員だから坊主にしなканの？意味わかんないんだけど。

蓮華 だって、

水野 風紀委員は校長から直々に指名される名誉ある職務です。なんで坊主にしなканの？

蓮華 なんかつこい坊主に反応するし、

水野 そんなに坊主に憧れてらっしゃるんですしたらあなた坊主になさい、男の子みたいなんだから元々、

どうせまたノーブラでしょ。

蓮華 …私は今、幼馴染を一人失ったみたい。

堂上 じゃあ私が代わりに幼馴染になつてあげますわ。水野さん、わたくしは二年D組堂上マルコです、

よろしく。

堂上、手を出す。

水野は出さない。

堂上 さて水野さん、ひとつ幼馴染としてお聞きしたいんですけど、どうやったら指名されるの、その風

紀委員には。

水野 初対面のあなたが幼馴染になれるとは思えないけど教えてあげますわ。

堂上 ありがとう。

水野 そうね、あなたにはまず身長が足りないわね。

堂上 え？

水野 それから品位。あなた部屋散らかってるでしょう？靴下脱ぎっぱなしでしょう？次に家柄、教養、

世界観。

堂上 世界観…？

水野 フィーリング。

堂上 フィーリング？

水野 要するに校長の好みよ。

堂上 校長の…好み。

水野 そっよ。

蓮華 水野さん、あなたまさか…、

水野 なんです？

蓮華 なんでもない。

水野 よろしいこと！これより一時間はどなたも校舎の外には出られません。強攻突破しようものなら後

で物凄く嫌な事が待ってます。大人しくしてらっしゃい。

水野、下手に去る。

蓮華 みいちゃん…。

反町 …ねえ、校長って、男？

蓮華 …そりや、そっでしょ？

反町 そう、よね。

蓮華 …え？

反町 いえ。

蓮華 え？

反町 ううん。

堂上 …え？

蓮華 は？

反町 え？

城田、下手からやってきて、

城田 あ、皆さんもひよつとして帰れなくなった組ですか？もしあれでしたらお手洗い掃除手伝って頂い

ませんか？

堂上 …。

城田 わたくしお手洗い掃除、思いの外時間が掛かってしまっただ二階までしか行けてないんですの。

一緒にやって頂けると助かります。

堂上 …。

先生、上手からやってくる。

城田 あ、先生も。

先生 …え？

城田 先生もお手洗い掃除手伝って頂けます？

先生 …は？

城田 わたくし二階におりますんで。

先生 …え？

城田 ごきげんよう。

城田、上手に去る。

先生 …私、先生なんですけど。…皆さんも、早くお帰りなさい。

と言って、下手に去る。

反町 そんな事言われても、帰れないのだから。

堂上 今の方、二階に行くって仰ってたわ。

反町 ええ、仰ってた。

蓮華 お手洗い掃除を名目に登ってもそんなの通用する訳ないじゃない。

反町 ご存知ないのでしょか、校則。

蓮華 そんな訳ありませんよ。

反町 じゃあ…？

堂上 この校則にしてもおかしなお話だと思いますわたくし。どうしてわたくし達が上の階に登っては…

反町 堂上さん、シー（指を立てる）。

堂上 しょうが無い方ね、わたくし行つて止めてきますわ。

反町 え？

堂上 校則違反しようとしている生徒を黙って見過ごす訳にはいけませんもの。わたくしには正義の心

があるんです。

蓮華 ダメよ、どんな理由があろうと勝手に上の階に上がるのは禁止なの。

堂上 じゃあ教えて下さる？それはなぜなのか？

蓮華 …。

堂上、窓際に寄り、見上げて

堂上 上の階に登ると壁の向こうが丸見えになるんじゃないやなくて？だから生徒が勝手に登るのを禁止して

る。学校の方々はわたくし達に見せたくないものを壁の向こうに隠してる。そうじゃなくて？

反町 堂上さん

蓮華 見せたくないモノって、なんですか？

反町 堂上さん、あっち向いてホイ。

堂上 だって考えてもらいなさい？わたくし達は立二年生ですわ、なぜこの校舎のどこにも三年の男子の

先輩が居らっしゃらないの？登下校の時間が限られているのもその為よ、今わたくし達を閉じ込めてる間に壁の向こうの男子達は別の出入り口から下校してるのよきつと。

反町 そうだ、「君に届け」のお話をしましょう。堂上さんはあの中だったらどんな男性がお好み？

堂上 あの中だったら誰でもいいわ。ていうか漫画に出てくる男なら誰でもいい。

反町 堂上さん、ダメよそんなはしたない！

蓮華 あなたはよくそんな荒唐無稽な発想をなさるわ。そんなの隠し通せる訳ないじゃない。校舎の外で

待つてたらわかる事ですもの。

堂上 じゃあなんなんこの壁は？意味わかんないじゃん。なんでこんなに高いの？

反町 わたくし頭が痛いわ（抱える）…。

堂上（上手の方へ）あなた、ちょっとお待ちなさいあなた！

堂上、行くこととする。

蓮華 お待ちなさい。

堂上 わたくしはあの方を止めに行くのよ、放して下さい？

蓮華 ダメよ。あなたまで校則違反

蓮華、堂上の腕を掴む。

堂上 放しなさい、悪いのはあの人よ。

堂上、行くことと腕を引くと軽く抜ける。

蓮華 およしなさいったら（掴む）。

堂上 放して（抜ける）。

蓮華 行かせません(掴む)。

堂上 放して(抜ける)。

蓮華 ダメよ(掴む)。

堂上 あなた汚いわね、わたくしを止めながら二階まで行く気ね。

反町 もお止めて、なんであなた達さつきから、やってくることはまるでスケバンじゃないの。もう嫌

わたくし帰ります。お父様とお母様の教育上スケバンとはお友達になれません。もう絶交よ。お好きに
なさい、あなた達が上の階に登ろうが何をしようが、わたくしとは無関係ですからね。

蓮華 …帰れませんよ。

反町 何しろわたくしはもうあなた達の事は知りません。見たこともない事にしますわ！

蓮華 反町さん。

反町 聞こえないわ、何も聞こえません。

蓮華 …こんなの冗談に決まってるじゃない。

反町 え…？

蓮華 所詮わたくし達には何も出来ないのはわかってる…、わかってますわ。

反町 …。

蓮華 校長が恐いのはみなさん御承知の通り、大人しく時間が過ぎるのを待ちましよう。

反町 …そっよ、驚いた。あー、まんまと騙されてしまいましたわたくし。おほほ。

堂上 …。

反町 そっだ、わたくしがタンポポの話をしてあげます。タンポポはね、早く育ってしまうと小さな綿毛
になつてしまふ。大きな綿毛になるまでじつと堪えていれば、風に乗ってずつと遠くまで行けますわ。

わたくし達はその辺の雑草じゃありません、タンポポよ。どこまでも飛んで行けるの。今はまだ知識を
蓄える時、わたくし達の物語は、卒業してから始まるのよ。

蓮華 …。

反町 …ほほ。

堂上 …校長はね、ハマーに乗ってます。ハマーというのは米軍の軍用車を民間用にリフォームしたお車
なんですって。学校の長が軍用車に乗ってるってどうなんでしょうね…と思ってる方もいらつしやるは
ずよ。

蓮華 軍用車に乗ってる方は、好戦的な人間に違いない。無慈悲で、血を好む。

堂上 そっよ…それでもね、

蓮華 うん…。

堂上 女には、男なんかにも考えも及ばない深いはかりごころに遠慮いと書いた深謀遠慮がある。この一年

半、青春真っ最中の大事な一年半を奪ったこの学校を、わたくしは絶対許さない。

反町 あ…。(頭を抱える)。

蓮華 …私も、私もよ。

堂上 大きな疑問を抱えたまま卒業してこの三年間を無かった事にするなんてウチには耐えられない。

蓮華 私だつてそう。私らの三年間は、ただただ壁に向けてため息を吐くだけじゃないのよ。

反町 全くあんたらときたらさ、どうして私に忘れてまった感情を無理矢理思い出させようとするの。そ
んな事言うんだつたら私だつてそうよ！

堂上 言つとくけどウチは男子なんか居ても居てもどつちだつていいんだよ！

蓮華 どつちも居るよ！それどつちも居る！

反町 私だつて！だつて男子なんか居たら面倒くせーもん！女子の中には鎖骨フェチとか多いからさ、や
れの鎖骨だこの鎖骨だつていちいち話聞いてあげなきゃいけない。

蓮華 それはあなたの話じゃなくて？

反町 違つもんねー私はどつちかつて言つと鎖骨から首筋に至るそのラインだもんね。

蓮華 男は首にセクシーさが出るもんね！

堂上 二の腕とかさ、Tシャツで抱きしめられてこらよ…、もう気持ち悪いよ！汗臭くて、もつきつと
びつくりするほど臭いんだ男子つて奴は。

反町 あの匂い嗅ぐと安心するとか言う女子居るよね。

堂上 居る居る、そういう奴に限つてたいした経験も無いくせに知つたかぶりて言うんだよ、お前は犬か
つて。

蓮華 犬はどうしてあんなに匂いを嗅ぐか知ってる？

堂上 え、知らない、なんで。

蓮華 人間は目で見て表情を読み取るけど犬は匂いから相手の気持ちを探るのよ。

堂上 へー、なるほどね。

反町 ねえ犬の話どうでも良くない？

蓮華 そっだよ、どうでもいいよ。男子くらいどうでもいいよ。

堂上 どのくらいどうでもいいかつて事の例え話をしてたんだよ。良い例えだつたよ。

蓮華 ありがとね！

堂上 ごきげんよう。

反町 このように私らはけつして男子の事が気になつてらんじゃない！

堂上 この学校の体質の事を言っているのよ。この学校を変えていかなくちやならない、それがウチら二年の役目よ。

蓮華 マドンナ旋風ね！

堂上 古っ。

反町 来年の、新一年の為に頑張らなきゃ。

堂上 この学校がダメになるかならないかは、生徒であるウチんらに掛かっている！

蓮華 うん！

先生、下手から戻ってきた。

途端、先生を黙って睨み付ける二人。

先生 …私、先生なんですけどね。

続いて水野やってきて、

水野 先生でもダメですよ。

先生 (生徒達を見る)…いやね、私も外に出ちやダメなんですって。なぜなんでしょう？私、先生ですわよね…？

水野 先生でもダメです。この時間は校舎外には出られません。

先生 あの、私今日休みなんです、もともと。コホコホ。

水野 はい。

先生 その、忘れ物取りに来ただけで、そしたら窓ガラスが割れて、それ掃除してたんす。だから、

イイ事してたんすよ。

水野 先生まで嘘ついたら困ります。

先生 嘘じゃないですよ。だってその窓ガラス割れてるじゃないですか？

水野 あなたが掃除したのよね？

堂上 …あ、はい。

先生 …え、ちよっと、なんでそんな事言うの？あなたなんにもせずにごく見てたじゃないですか、

水野 先生は、生徒に罪をなすりつけている。これはチェックしておきます。

水野、手帳を取り出し見せる。

先生 えー、ちよっと待ってよ、だって見てたじゃない、私片付けてたでしょ？

堂上 先生、ひどいですわ。

先生 ひどいのはあなたじゃないの、ちよっと、

堂上 謝って下さいませ？

先生 ヤダ。

堂上 じゃあ先生、

顔を見合わせ、うなづく二人。

堂上 わたくし達これから、先生の授業はボイコットする事にします。

先生 え？

堂上 それだけじゃございません、PTAにも陳情書を送りますわ。反町さんのお母様はPTAの役員で

すものね。

反町 違いますけど、そうすわ。

先生 え？

堂上 どうします？先生も雇われの身ですわ、PTAから不評を買えば学校も黙ってはいただけませんでし

よう？

先生 そんなちよっと…、助けて下さい風紀委員。

水野 風紀委員は先生のお世話もするとお思いですの？

先生 そんなだつて…

堂上 先生はおかしいと思いませんか？普段、授業をしていて。

水野 手帳になにやら書きこもつする。

先生 何がです？

堂上 この学校は、男女共学というのはご存知ですよ？

先生 はい。

蓮華 だったら！

堂上 蓮華を抑える。

堂上 おかしいですわよね、男女共学というのは何をもって男女共学なのか。女が居て、男が居て、ともに笑い、ともに泣き、恋をする。それが男女共学ですよ？

先生 ……え？

反町 違います。

堂上 それは違うという話です！

先生 はあ。

蓮華 男女がともに学ぶと書いて、男女共学です！

先生 はい。

堂上 じゃあ、どうして女子ばかりなんですか？

先生 ……え？

水野、顔をあげる。

堂上 だから、どうして男子居ないんですか？

先生 あ、居ません？

堂上 居ませんよ。え？居ないでしょ？

蓮華 居ないよ居ない、居る訳ない。

堂上 居ませんよ。

先生 ああ…。

堂上 ああ、じゃなくて、どういう事ですか？どこかに隔離されてるんですか、男子。

先生 ……は？

堂上 これは例えはのお話です。それくらい男子に遭わないって事です。

蓮華 私らもう二年なんです。今まで一回も、男子に会った事ないです。

先生 そうなんですか。

堂上 どういう事ですか、この二年間たまたま男子の入学が無かっただけでしょ？

先生 うーん…、

堂上 もともとこの学校は、男子校だったんですよ？そのウチらが入学する前の年は。

先生 はあ。

堂上 てことは、ウチらが一年の時、二年三年は男子ばかりじゃないですか普通？

先生 ……は？

堂上 だから二年三年に男子が一人も居ないのはおかしいじゃないですか！ウチんらが一年の時、その時の二年三年はど行っちゃった？おかしいなあと思ってもう一年半経っちゃったじゃないですか、どうしてくれるんですかウチらの高校生生活。もうホント無駄な事に気遣って、半分来ちゃったじゃないですか。どうしてくれるんですか！

先生 いや…、うーん、でもほら、四人行ったらほとんど男子ですよ。

堂上 それは「男子大生」でしょ？所詮男子大生でしょ？ウチらは今この時を言っているんです。「男子高

生」と一緒に過ごせる時間は人生の中でたった三年間しかない。その貴重な三年間を無駄に過ごせよ、そう言ってますか先生は？

反町 「君に届け」読んでないんですか？

先生 ……え？

堂上 これは別にウチんらが「君に届け」に憧れてるって言うてる訳じゃないんで誤解しないで下さいね。ウチんらが問題にしているのはこの学校の事なんです。この学校の隠い体質を問題視してるんです我々は。

蓮華 いじめとか天下りを公表しろって言うてるんじゃないんです我々は。

反町 男子の居場所を教えてくださいって言うてるんです我々は。

先生 居場所と言われても、

堂上 別にウチんらが会いたいって訳じゃないんです！未来の子供達、新一年の為に言っているんです我々は、どうなんですか先生。

先生 いや、えー…、

堂上 だって男女共学なんですよ？このままだと女子校だと思ひ込んでる生徒、たくさん居ますわよ。

先生 (苦笑して) ああ…、

堂上 え、何笑つとんの？え、何笑つとんの？

先生 あ、すいません。

堂上 だってこれじゃあ何の為にこの学校に入ったかわかんないですよウチんら。

先生 え？

堂上 そりゃあわかってますよ！学生の自分は勉強だって事くらいわかってますよ。でも男子居ると居ないのとじゃ全然そのモチベーションが違いますからね。

先生 はあ…。

堂上 だからホント、良かったなあとは思ってるんですよ男子居なくて。ホント男子なんか居たらもう面

倒臭いですからね。もう勉強に支障が出ますから、一面倒臭くて。

蓮華 一面倒臭いよ、男子居ると急に色気つく女とか居るからね。

堂上 でしょおっだから良かったなあとは思ってるんですよ。

先生 …ん？

堂上 どうしてくれるんですか！

反町 どうしてくれるんですか！

蓮華 どうしてくれるんですか！

先生 …なんで今頃言うんですか？

堂上 …は？

先生 …なんで今頃言うのかなって…

堂上 …なんで今頃言うのかなって言う普通？

先生 だって入学した時点でわかりましたよね？

堂上 もつ二年も二学期ですよ。

先生 はい。

堂上 あと半年で、卒業なんですよ、唯一残った三年の男子は！あと半年で居なくなっちゃうんですよ、

こりや言つとかないと気が済まないって話ですよ。

先生 …ん、ごめんさい。どういう事？男子生徒が、居なくて良かったと思ってるんですよ？

堂上 …そうですよ。だって男子の先輩がうじゃうじゃいると思ってるからねこつちは。

蓮華 危ないよ。

堂上 危ないよねえ？

蓮華 うん。

先生 …じゃあ良かったじゃないですか。

堂上 …うん結果的にはね！でも結果ですからね。結果良ければ全てイイって訳でもないですからねこれ

ばっかりは。だってこれ詐欺みたいなもんですよ。

蓮華 詐欺…？

堂上 だって詐欺でしょう男子校が今年から男女共学になりますって言ったも雇つぶちの女子は飛び付く

よそりや。ウチらは違いますよーウチらは全寮でんな雇つぶちじゃねえし。

反町 目血走ってねえし。

先生 はあ。

堂上 だからそれを利用して入学者増やそうとしたんでしょ？違います？

先生 いや、どうなんですかねえ？

堂上 どうなんですかねえじゃなくて、それが極限状態の女子的発想だと言ってるの。

先生 はあ…。

堂上 でも実際入学してみたら男子一人も居ないなんて、それは詐欺でしょう？ねえ？

蓮華 ああ、うん。

先生 あのお、

堂上 はい。

先生 …でも会ったことありますよ私。

堂上 …え、男子に？

先生 はい。

問。

生徒達 え、え？え？いつ？！

先生 いや、いつって言うか…、

反町 は？え、何組？何年？

先生 いや、何年何組かはわからないですけど…、

反町 …なんでわかんないの？先生でしょあんだ？

先生 …ちよつと皆さん、声…、

堂上 …どこで見たの？

先生 …いや廊下ですれ違つて…、

水野 …え、え、何階の廊下ですか？

先生 …いや、もう覚えてないけど…、

蓮華 …（水野に）なんであなたが入って来るの？

水野 …どんな感じなんですか？

堂上 …え、何回くらい会ったことあるんですか？

先生 …いや、まあ、結構…。

反町 …結構つてどれくらいですか！

蓮華 ちよつと落ち着こうよみんな。

水野 どんな感じなんですか！

反町 結構つてどれくらいですか…。

蓮華 みんな一日深呼吸しよ！

堂上 しないよ！

蓮華 しない？よし！

水野 え、じゃあ居るつて事ですか？この学校にも男子。

先生 まあ、そういう事だと思っただけねえ。

堂上 え、じゃあなんで会わないんですか、ウチんらは。

先生 うーん…。

堂上 どういう事ですか？何階の廊下に出没するんですかその男子は。

先生 そんな、熊じゃないんで…。

堂上 熊みたいな男子なんですか？

水野 そついうの好き！

先生 あ、いや…。

蓮華 何時限目とか覚えてないんですか？

先生 いや、割と普通に歩いてますから、ええ。

反町 ふざけんじゃねえぞこの野郎！(殴りかかるうとする) 私ら一回も見たことないですよ！見たこと

ないんですよ！見たことない人達に向かつて、割と普通にー？バカにすんのもいい加減になさい！

先生 えー？！

堂上 ちよおいかん、この子もうダメだ。

蓮華 うん、ちよお座りやあ。

反町 だって…、だってバカにしてんじやないの…。

反町、体操座り。

堂上 それは何ですか？かたまつて歩いてるんですか？

先生 …え？

水野 どんな感じなんですか？

堂上 だから、複数居るんですか？

先生 いや…。

水野 深いですか？

先生 何が？

水野 毛。

蓮華 その時は何人居たんですか？

先生 まあ、一人、かなあ。

蓮華 一人？

反町 匂いは？

堂上 かなあ、つて何？なんでそんな曖昧？ねえ、ホントに見たんですか？

先生 見ましたよ。見たのは間違いないですから…。

反町 どんな匂いにするの！

堂上 じゃあなんで一回も見ないんですかウチんらは！

先生 皆さんは会いたいですか男子生徒に？

堂上 私らは別にいいんですよ！

蓮華 うん、ウチんらはほんと、男子なんて、ええ。

水野 風紀が乱れますからね、男子居ると。

反町 どつかに居るんだと思うだけでもう、汚らわしいわよね！。

生徒達 ねえ！。

先生 …あのお、皆さんね、あんまり大声で騒いでると、怒られちゃいますよ、他の先生に。

堂上 この壁の向こうには何があるんですか？

先生 え？

皆、壁の方を見る。

堂上 どうしてこんなに高いんですかこの壁は。

蓮華 まるで刑務所じゃない。

先生 ああ…。

堂上 なんの為に存在するんですかこの壁は。

先生 うーん、私じゃあ良く分からないんで、校長に直接聞いて貰った方が、

堂上 校長様に直接なんか聞ける訳ないでしょうが！

蓮華 先生が聞いてよー先生が！

先生 私が？

堂上 バカー！

水野 先生が自主的に聞いてよね！

反町 私らは関係ないですからね！

堂上 バカー！

先生 …。

水野 校長とか言ってるじゃねえよ…。

堂上 バカー！

蓮華 何言つとんだて…。

反町 何言つとんだ。

堂上 バカー！

先生 イヤ、私学校の事はホント…。

蓮華 みんなちよつと落ち着こうか。先生の言ってるのはたつた一人だけの男子かもしれない。

堂上 そうか、そうだね。

水野 一年に男子が入ったつていう話は聞いてないよ。

蓮華 なんにしろ、今突つ込んで犬死にだから。

堂上 うん。そんなじこの馬の骨の男子かもわからないギリギリの男子に一喜一憂してもしょうが無い。

蓮華 そうだね。

水野 なんでもいいつて訳じゃないしウチらも。

蓮華 うん。

反町 もつなんでもええて男なら。

蓮華 まあね。

水野 なんでもいいか。

反町 気取つてる場合じゃねえし。

堂上 じゃあまあ見た目はおいとこう。

蓮華 とりあえずね。

女子達 うん。

先生 あのお、皆さん、どうしてそんなに焦つてらつしやるの？皆さんまだ高校生ですよ？

女子達 …。

先生 ん？

堂上 先生は、彼氏居ますか？

先生 …え？

堂上 …。

先生 そりゃあ、まあ、

水野 居ない居ない、今の見たらわかる、あれは居ない。

蓮華 居ないね。

水野 うん。

先生 なんですか皆さん、先生に向かつて…。

堂上 私達は、三〇越えても彼氏出来ない先生のような女にはなりたくないんです。

先生 ちよつと、先生だつて、たまたま今居ないだけで、

反町 じゃあいつまで居たんですか？

先生 うんと…。

水野 ないない、付き合つた事ない。

蓮華 ないね。

先生 わたくしもう帰りますね。

水野 帰れませんよ。

先生 でも、先生ですから、

堂上 私達は、今なんだと思つてるんですか？

先生 え？

堂上 女子高生なのですよ。

先生 はい。

堂上 女子高生というこの最高の状態を、無駄に老いさせたくない、それだけなんです。

先生 はあ。

堂上 この最高の状態で男と会わなかつたら、この先私達 先生みたいになつちゃうの嫌！

反町 嫌よ私！

蓮華 男子はどこに居るんですか！

先生 皆さん、なんか怖いすわ。鬼畜のようですよ…。

水野 先生が大人しく出せばいいんですよ、男子。

先生 …だから、私もどこに居るのやらわからないから、その、うん。

堂上 先生。

先生 …はい。

堂上 先生は、ちよくちよく会うんですよね？

先生 まあ、ちよくちよくつていうか、まあ、はい。

堂上 ちよつと一緒に歩きましょうよ。

先生 え、どこを？

堂上 校舎内ですよ。

先生 いやでも…、もつこの時間は、居ないと思えますけど…。

生徒達 先生を睨みつけている。

先生 私今日、休みなんですよね…。

上手に歩きたす。

と、業者の・欄橋が下手からやつてきた。

段ボール箱を二つ持っている。

欄橋 あのお。

先生 あ、どうも…、ご苦労様です。

欄橋 三年の、古川先生のクラスは、どこですかね？

先生 あ、古川先生…うえーつと、少々お待ち下さいませるか。

先生、下手に行こうとする。

堂上 どこ行くんですか？

先生 あ、ちよつと職員室…。

堂上 職員室なんか行きませんよ。

先生 あ、でも、古川先生の…。

蓮華 なんにも知らないんですね、先生。

先生 だって今日、休みだから、

堂上 休みは関係ないんじゃないですか？

先生 あー、じゃあ、どうしよう…。

欄橋？

水野 一緒に探したらいいじゃないですか、ちよつと良いですよ。

先生 え？

生徒達 睨みつけている。

先生 …、じゃあ、行きます？

欄橋 はあ。

先生 とりあえず、二階に行きましようか。この階に古川先生なんていう先生は居ないと思えますから。

欄橋 はい。

先生 あ、持ちますね。皆さんももつ一つ。

誰も答えない。

欄橋 大丈夫ですよ。

先生 じゃあ、一階に。

欄橋 はい。

上手に去る、一行。

暗転。

／ 二階 ／

城田と不破、並んで窓の外を見ている。

不破 ♪ねえおかしいでしょ若いころ。ねえ滑稽でしょ若いころ。笑い話に涙が一杯、涙の中に若さがいっぱい。人生いろいろ♪…この歌、しばらく私は、涙の中には「壺」が一杯だと思っていたの。

城田 はい。

不破 ♪母さんがよなべをして手袋編んでくれた…これは決して母さんが夜、鍋をしながら手袋を編んだ歌ではない。夜、鍋をしながら編んだ手袋なんてクソくらえよ。

城田 あ…

男子1、下手から上手に歩いて行く。男子の手には「2」というナンバープレート。
その姿を茫然と見送っている城田。

不破 ♪お腰につけたきびだんご…、これも別に雷おこしを煮付けたきびだんごという意味ではない。とか雷おこしを煮てもきびだんごにはならない。とまあこのように、歌というのは聞く人がどこで区切るかによって、随分違った印象に聞こえるものです。こんにちは、不破由紀子です。

城田、目をこすり、上手に去って行く。

不破 ♪あん、あん、あん、とっても大好きドラえもん。…これは別に、ドラえもんがあんこが好きだという歌ではない。…じゃあ一体「あん、あん、あん」ってなんなの。何を甘えているのバカ者。

一行が下手からやってきた。

先生は、反町に袖を掴まれている。

堂上 モテる女とモテない女、何が違うのかネットで検索してみようと「モテる女の条件」と打ち込んでいる時点でモテない女の仲間入りしている事に気づける女はまだマシで、そのままモテる女になる為の十カ条なるものを実践しようとしている奴がいるんです。しかし我がノストラダムス高校は男女共学なのに男子居ないしバイトも禁止、せつかく覚えた十カ条をどこで実践したらいいかわからないようなのです。

不破 ごきげんよう。

先生 ごきげんよう。

反町 その十カ条とはなんですか？

蓮華 そうね、反町さんは覚えておいて損はないかもしれないわね。

反町 私には必要ないけど参考までに聞いておきたいのよ、知識は腐らないもの。

堂上 私は知らないわ。これはお友達のお話ですもの。

反町 そうでしたわ。

堂上 まず第一に、

反町 知ってるんじゃない。

堂上 エロい女。

反町 エロい？

先生 えつとお、このクラスは…(教室を覗く)。

堂上 女だつて男みたいにエロい事を考えている、と男は思っているかもしれないけどそれは間違っている。女は男みたいにエロい事は考えていないのよ、と強く主張する女に限ってエロい妄想が頭から離れないでいるんです。

反町 例えはどんなエロい事？

堂上 わたくしにはわかりませんが、かなりの崖っぷち女でないとな。

水野 エロい事を考えている女とエロい女とは違うと思います私。

堂上 そうよ。エロい事が頭から離れない女は、「尋ねる」って漢字を見ただけで「エロ」しか目に入らなくなるし、そういう女はいよいよ危ないですね、というお話です。

先生 じゃあ行きましようか、三階に。

欄橋 あ、はい。

不破 お待ちなさい。

先生 …どうしました？

不破 だつたら歌よ、あんたら、歌を歌いなさい。

堂上 あなた、誰？

反町 転校生の不破さんよ。名古屋の学校からやってらしたのよ。

蓮華 これだから都会の学校の奴は嫌いなものよ。

不破 あんたがモテン原因を当ててあげるわ、音痴だからよ。

堂上 か、勘違いしないで下さいませ？今の話はわたくしの話じゃなくてよ。わたくしはモテます。だからわたくしは音痴ではありません。

不破 音痴の奴は皆そう言うのよ。

堂上 ウチは音痴じゃない！言つとくけどウチ音痴っていう言葉も知らないからね。なにそれ？ウチみ

たいでかつこ悪い。

不破 かつこ悪い事から逃げちゃダメ。「かつこ悪い」を認めることから始まるのよ。

堂上 ウチはウンチじゃない。

不破 ややこしいわ。

蓮華 歌…？

水野 歌…。

不破 みゆきを歌いな。

反町 …みゆき？

不破 私はこの学校に、合唱部を作る。

堂上 合唱部？

不破 あんたらみんな、入んな。

先生 あ、それはいいんじゃないですか？ねえ？みんなで合唱部作りなよ。

堂上 ちよつと待つてみんな、騙されちゃダメよ。みゆきなんて古い。みゆきを歌うつてなんかエロい隠語が含まれているに違いないわ。

水野 ねえあなた、合唱部に入ればモテるの？私らの、いやこの子たちの生きる指針は全てそれよ。どうモテるの？

不破 それは、あなたが一番よくわかつとるんじゃないの。

水野 …わからないから聞いているの。

反町 水野さん、見回りに行かなくていいの？

水野 …今一番風紀を乱しているのは皆さんですからね。知らないわよ授業後にこんなに騒いで、歌なんか歌つてみなさい、後で校長の耳に入つたらどんな目に遭うか…。

先生 あ、そうですわ。そうですわ。

水野 そうならない為にも、私が皆さんを監視することにしたの。

不破 合唱は風紀を乱す事にはならない。私らが歌うのはみゆきよ。みゆきを嫌いな日本人なんて聞いたことないわ。

蓮華 確かに合唱部はモテるかもしれない…、授業中とか放課後は大人しくせに合唱コンクールになるとんでもねえでけえ声で歌う中山つて女が居た。

堂上 でも合唱部なんて基本オタクの集まりでしょ？デブと眼鏡しか居ない。

蓮華 デブで眼鏡のくせにあの中山！

不破 これからの時代は合唱部よ。中山のように大きな声で歌う女子がモテるのよ。流行を先取りしないとすぐに追い抜かれてしまうわよあんたらみたいな崖っぷちは。

水野 これからの時代は、大きな声で歌う女…。

不破 合唱部に入れば自然と声が大きくなり、気づくと男子が寄つてくるようになるわ。

反町 まるで魔法じゃない！

堂上 ウチは歌の力なんて借りたくない。ウチの理想はなんの努力もせず息を吸つてただけでモテル女よ。

不破 合唱部に入れば、息の吸い方だつて可愛く見える。

水野 歌が上手くなつたところで寄つて来る男子が居ないじゃないここには。

不破 居るじゃないの、この向こうに（窓の向こうを見る）。

水野 あ、あなたは壁の向こうに向かって歌う気？それは無茶よ。

不破 私らは合唱部なのよ、どこに向かって歌おうが勝手でしょう。

水野 そんな事したら校長にもすく怒られる。最悪の場合退学よ。

堂上 なんてよ？この壁の向こうには男子がうじゃうじゃ居るのね！

反町 やつぱり！やつぱりよ！！

水野 違う、壁の向こうの事は考えちゃいけない事になつてるのよ校則で。

堂上 なにそれ変な校則！

蓮華 風紀委員は知つてるの？この向こうに何があるか？

水野 知つてる訳ないでしょ。

不破 確かめてみようじゃない、この壁に歌つてさ。

水野 …どうなつても知らないからね。

不破 大丈夫よ、私らには今、先生がついてるんだから。

先生 はあ？！

欄橋 あのお？

先生 あ、すいません、行きましようか…。

また反町に袖をつかまれているので。

先生 ちよつと、放してちよつと、

反町 可愛いとか可愛くないとか、可愛らしいわたくし達には全く関係のない事ですわ。モテルとかモテナイとかも、モテルわたくし達にはどうだっていい。だけど私は、合唱には少しでも興味があると思ひます。合唱つてなんかすげーなんかすげー青春の香りがしますし、ずっと勉強に明け暮れて何も思ひよりは、やるだけやつてダメならしかたないと思つて言つてます。

不破 あなた、名前は？

反町、菜々子。

不破 イイ名前ね。そういう名前を探していたの。

堂上 これは友人の話なんだけど、彼女のした選択は全て間違える。今回だってそうかもしれないと思つて怖い、怖いよ。

不破 あんたはいつまでかっこつけるつもりなの。あんたにはもう失うものは何もないんでしょ？

堂上 そこまで言わなくてもいいじゃない。私にだって失つて嫌なものくらいある。

不破 そんな事を言っているからモテないよあんたは！もつとがむしやらに行きなさい！

堂上 ……

不破 ウストラトンカチが。

堂上 ……怒鳴らなくてもいいじゃない。私はいつも深刻に考えてしまう性分なのよ、だから失いたくないものをアレコレ考えてしまうの…。

蓮華 失いたくないものって？

堂上 ……わかんない。

蓮華 ……は？

堂上 ちよつと今思いつかない。

蓮華 ……は？

不破 みゆきを歌いな。あんたに必要なのはみゆきよ。

堂上 でもみゆきってエッチな事強要されないでしょうね？私嫌よそんなの。

不破 どんな偏見か知らないけど、みゆきの歌詞にはエロい事の欠片もないわ。

堂上 ふぁいと、戦う君の唄を♪

堂上・蓮華・反町 戦わない奴らが笑うだろう♪

不破 その先の歌詞を知らないのよ。

不破 合唱部に入んな、教えてあげる。

先生 皆さんね、ここは廊下ですからね…、

不破 ねえみんな、男女共学というのは、男子がいつも当り前に目の前に居るんでしょ。そこに居る女子は毎日どんな気分だと思っ？

蓮華 男子に囲まれた女子なんて、いちいち可愛い仕草とか知ってそっ…。

反町 勉強じゃあわたくし達に勝てないから、色気で勝負しようって魂胆なのよ。

蓮華 なに上気つて…、休み時間になると寄つてたかつてチャホヤされてき、休み時間だから休め

よ中山！

不破 この壁の向こうには沢山のそういう中山みたいな女子が居る。そいつらに聞かせてやろうじゃないか私らの合唱をき。

堂上 あなたはそんな当り前の青春を、ウチんらの合唱で消せると本気で思っているの？

不破 例え一人一人の力は弱くても、みんなで力を合わせればきつと勝てる！

生徒達 ……！

不破 あんたらこのままでいいの？中山だって私らと同じ高校生よ。似たような時に似たような土地に生まれ、食い物も変わらなければ背格好だってそう変わらんでしょ？なのになんなんこの差は。あんたら悔しくないの？男子に、ちやほやされたくないの…！

堂上 ……されたいです…！今まで、なんとか楽しんでちやほやされようと思ってたけど、汗水垂らしてまで

ちやほやされたくないって思ってたけど…今は、なんとでもされたいです！

先生 (指を立て) シー。

蓮華 ……私も、されたい！されたいよおー！されたい…。(泣きだす)。

先生 ねえ「されたい」だけだと、なんか変な意味にとられちゃう可能性もあるからさ、

反町 私だって、私だってこのまま高校生を終わらせたくないです。だから、されたいです！

先生 すいませんね、もうちよつとだけ待ってて貰ってもいいですか？

欄橋 はあ…。

水野 本気？私らはもう半分で卒業なのよ、今まで我慢してやってきて、いいの？こんなところで卒業を諦めても？リスクが高過ぎるわ。

不破 水野さん、あなたはなんの為にこの学校に入ったの、卒業する為に入ったんじゃないでしょ？

水野 ……

不破 恐いなら辞めなさい、だけど邪魔はしないでちょうだい。

蓮華 みいちゃん！無事に卒業すること、高校で男子にちやほやれるって事は、同じくらい価値のある事なんだと私は思っよ。

水野 れん…。

蓮華 思い出して！週一で美容院通つたために毎朝続けた新聞配達。あの時の汗は、本物だったでしょ？

水野 ……

不破 どうする水野さん？私はあなたに、私らの「ミ」になつて貰いたい。

先生 あ、頭文字？ねえ、頭文字？

水野 ……されたい、私もされたい。されたいです！

先生 うん、だからね、

生徒達 されたいです！

不破 よおし、あんたらの気持ちは良くわかったわ。じゃあ私はこれから、あんた達を叩く。

先生 は？

不破 いいわね、堂上さん。

堂上 はい！

不破 私はあんたの名前が気に入ったわ。歯を食いしばんなさい！

先生 名前？ねえ、名前が？

堂上、歯を食いしばる。

それをぼーで叩く不破。

先生 わ、わ…、

不破 次、蓮華さん！

蓮華 はい！

不破 頼んだわよ！

蓮華 はい！

叩く。

先生 ちよつと…、

不破 水野さん！

水野 はい！

不破 あなたは風紀委員よ、いいのね？

水野 …こんなバッジ、こうしてやる！

水野、バッジを外してポケットにしまう。

不破、叩く。

先生 名前よう皆さん名前で選ばれたんですよ…。

不破 反町さん！

反町 はい！

叩く。

城田、上手からやってきて、

城田 あ！皆さん来てくれたんですね？

城田もついでに叩く不破。

先生 あーあ…、

不破 いい？私だつて痛いよ！この痛みを忘れなさんな！

生徒達 ふあい！

欄橋、箱から楽譜を取り出し演奏する。

生徒達は歌う。

♪バカじゃないのと笑わば笑え バカという奴がバカなんだ
そびえる校舎の壁 湧きあがる男子の声 膨らむ妄想
いつか出会えるその日まで ウチらは歌う ドレミの歌

先生 …上の階に行きましようか。

欄橋 あ、はい。

城田 …あのお？

上手へ歩いて行く一同。

暗転。

／ 三階 ／

廊下。

男子2が立っている。手には「3」のナンバープレート。

チラッと下手の方を見てからネクタイを外し、その辺にひっかけて上手に去る。
しばらくして、下手から一向がやってきた。

先生 古川先生っていうのは、音楽の先生なんですか？

欄橋 じゃないんですか？

先生 うーん…？

欄橋 音楽室とか？

先生 ああ…

水野 堂上さん、私達はあんな男みたいな女にまんまと乗せられてしまったけど、本当に大丈夫なの？お

まげに三階まで上がるなんてどうにかしてる…（見回す）。

堂上 そりゃあウチらだけで三階に上がるのはどうかしてると思うよ、でも先生が居るもん、大丈夫よ。

先生 え、ちよつと待って、私は知りませんよ…。

蓮華 不破さんは工業高校から転校して来たんだってよ。

堂上 道理で男らしいと思った。

反町 工業高校って事は周りは男子ばかりじゃない？何しに来たのかしら、痛いわあ、ほっぺ。

先生 皆さん、音楽室どこか知りませんか？

欄橋 仕方なく箱に座る。

先生 …あ、ちよつと休憩します？

欄橋 あ、いえ…（でも立たない）。

先生 私今日、休みなんですよね…（座る）。

不破 下手からハンカチで手を拭きながらやってきて、

不破 お待たせ。

堂上 随分長かったね、トイレ。

蓮華 うんこ？

城田 あ、お手洗い行ってたんですか？

不破 まあね。

城田 ピカピカじゃなかったですか一階のお手洗い。

不破 ピカピカだったわ。

城田 私が掃除したんです。

不破 そうだったの。

城田 お手洗いはキレイにしないとイケませんよ、お手洗いだけは。

不破 あなた、名前は？

城田 城田です。

不破 うん、イイ名ね。

城田 私！お手洗い掃除して来てもいいですか？

堂上 不破さん、ちよつとも現れないじゃないの男子。もう三階よ、どうしてくれるの。

不破 まあまあ、そう焦らないで。

蓮華 うんこ？

城田 私お手洗い…

不破 おバカさん。私みたいなおしゃれな女はうんこなんかしないわ。うんこなんか産まれてこの方した事がないのよ。私の肛門からは、奇麗なメロデイしか流れない。奇麗なメロデイとともに、フローラルの香りが漂う為に空いているのよ私の肛門は。

堂上 まったく屁理屈の止まらない人ね。

不破 「屁」なんてものは私の肛門からは出ないと言ってるでしょ。名古屋の女子高生は皆そうですわ。

堂上 あんたの肛門に興味はないわ、さ、早くみゆきを教えてちょうだい。

生徒達 そうよそうよ。

堂上 やっぱみゆきってなんかやらしい響きがあるわ。

不破 その前に私らの作戦を説明しておく。

蓮華 作戦？

不破 私らは個々の力で挑んでも、男子は振り向いてくれない。

水野 そんな事はわかってますよ、どうしたらいい？

不破 合唱なら、一人の力が何倍にも膨れ上がる方法を知っている。

反町 なんですかそれは？

不破 我々の作戦とは、ドレミファソラシ、七つの音を七人で分担し、一人ひとりの負担を減らすとともに、一つの音に集中することで個々の力を最大限にまで引き上げる。一人一曲マスターしている時間は私らにはない、七人で一曲マスターするのよ。

蓮華 七人…

反町 ここには、六人しか居ませんわ。

城田 私…

不破 あと一人、仲間が必要ね。

堂上 あては？あてはあるの？

不破 あてはある。

生徒達 え？

不破 先生を見る。

先生 ♪ドーはドーナツのドー。れーはレモンのレー。…私はですね、ドレミの歌の歌詞が替え歌で茶化される事に我慢できないんですよ。あれは元々「サウンド・オブ・ミュージック」の一曲なんですよ。

それがどうして、どれもこれもひどい歌詞にされてしまうのか…。

欄橋 はあ。

先生 この学校には校歌が無い。ドレミの歌に、新しい素敵な歌詞が付いたら、そのまま校歌に出来ないものなんですかね…。

欄橋 それは無理なんじゃないですか？

先生 ですよ…。でも校歌が無いなんて、ひどいと思いますよ。卒業式が締まらない。

欄橋 卒業式でドレミの歌唄っても…。

先生 まあ、そうなんですけどね…。

堂上 じゃあ、「ド」は？先生。

先生 え？

堂上 先生の言う、素敵な歌詞っていうのは、どんなですか？

先生 「ド」は、ドラマティック。

ぞわつく生徒達。

蓮華 「レ」は？

先生 レボリューション。

水野 「シ」

先生 ミステリアス。

不破 「フア」

先生 ファンタスティック。

反町 「ソ」

先生 …空。

堂上 そのままじゃないですか。

先生 空は良いと思うの、空で。

不破 「ラ」

先生 ラグジュアリー。

興奮が増す生徒達

城田 「シ」

先生 …私「シ」は要らないと思う。

城田 …え？

先生 シはダメ。やっぱり縁起悪いもの。

皆 城田を見る。

堂上 うん、でもさ、「シ」無いと、どうなるの？

先生 幸せ。

堂上 幸せでいいじゃないですか！

蓮華 それじゃあそのままなのよ。

城田 うつぶしている。

堂上 言ってあげなよ、えつと、

城田 城田です。

堂上 城田さん、あなたならあるでしょう、素敵な「シ」とは、何？

城田 はい。死とは消滅です。死の先は無です。

堂上 ちよつと、なんでそんな事言うの？

水野 ひどい。

蓮華 ひどい。

反町 死ぬのが恐くなっちゃうでしょ。

城田 なんと言われようが死の先には何もありません。それは代えるつもりはありません。

不破 それは違うわ城田さん。「シ」の先には「ド」がある。

城田 いえ、死の先には無しかありません。死後の世界なら存在しない。

先生 ほらね、こういう人がいるんです。

水野 キャプテン、彼女はダメ。「シ」に対して希望が無さ過ぎる。

城田 私はですね、「シ」の先がないと思っからこそ、今を一生懸命生きれるんです。人生は一度きり、だから悔いのない人生を送りたい。私から言わせれば、生まれ変わりを信じている人は、今の生に対して甘えていると、思いますね。

堂上 城田さん…。

蓮華 ミス城田…。

水野 そうか…、「シ」に対して希望が無かったのは、私の方だったのね。申し訳ない。

城田 いえ。

反町 これは、決まりのようですね。

不破 あなたは、私が今まで出会った中で一番「シ」に相応しい。

城田 ありがとう。

不破と城田、握手をする。

皆、拍手。

不破 私は今、ゴム手袋をした女と握手をしてしまった。

城田 皆さん、残りのお手洗い掃除手伝って下さい。

先生 じゃあ行きますか、

欄橋 あ、思い出しましたっ音楽室。

先生 …あ、ああ、音楽室…。

不破 先生、合唱部に入ってくれませんか？

先生 …は？

不破 私達にはあと、「ソ」の音が足りないんです。先生が入ってくれたら、七つの音が揃う。

先生 …は？

堂上 先生お願いします。素敵なドレミの歌詞を作って。

先生 …え、ちよつと待って、え？…私、先生なだけど。

堂上 はい。

先生 …え？

蓮華 お願いします、先生。私たちの「ソ」になつて下さい。

水野 お願いします。

反町 お願いします。

先生 …いや、だから、私、先生…。

堂上 そうよ先生なのよ。先生が生徒と一緒に合唱部やる訳ないじゃない。

不破 顧問はどう？

堂上 先生、顧問をやって下さい。

蓮華 お願いします。顧問をやって下さい。

先生 え？

水野 顧問でした。

反町 顧問をお願いします。

先生 …。

堂上 お願いします。

生徒達 お願いします！

先生 ヤダ。

生徒達 …。

先生 だつて顧問とかやると帰り遅くなるし。あれほとんどサービス残業だもん。ヤダ。

堂上 じゃあ「ド」は、どうなるの？

蓮華 「レ」は、練習不足。

水野 「ミ」は、見かけ倒し。

不破 「ファ」は、不安だらけ、

反町 「ソ」は、それは属

城田 …「シ」、…失敗

生徒達 うん…。

堂上 もう歌えませんか。

先生 どうして私のせいなんですか……私の名前は川口です。「ラ」とはなんの関係もありません。生徒誘いなさいよ「ラ」のつく……「ライオンさん」とか居ない？どっかに。

堂上 ライオン君なんて居る訳ないでしょ。

蓮華 居る訳ないじゃん……。

水野 バカじゃないの。

反町 バカだよ。

城田 ラスカル。

堂上 それあらいくまじやん。あらいくまがウチらの高校に居る訳ないじゃんね。

欄橋 あのお。

先生 あ、すいません。行きますね。

欄橋 私、欄橋です。

先生 ……え？

欄橋 欄橋裕美子。

先生 ……居たよ。

堂上 は？

先生 ……。

堂上 ……何言ってるの？そんな納品業者に何が出来るって言うんですか？え、納品業者とウチらが合唱するんですか？なんでですか？

先生 ……。

堂上 は？え？意味わかんないですよ。ねえ？

蓮華 わかんないよ。

水野 わかんない。

反町 わたくし達は納品されませんからね。

先生 ……皆さんちよつとその言い方、納品業者をバカにしてませんか？

堂上 ……してないですよ。納品する業者だから「納品業者」じゃないですか。

蓮華 その証拠に納品しない業者に私らは「納品業者」とは言いませんからね。

水野 品物を納めると書いて「納品業者」ですからそこには何もバカにする要素なんかありません。

反町 バカにしていると感じている先生の方がバカにしているんじゃないですか？

先生 ああ言えばこう言うんだから……。いやそりゃそりゃかもしれないですけど、この人は、皆さんの使う教

材を運んで下さってるんですよ。粘土とか。

欄橋 粘土は重いですよ。

先生 粘土は重いですよねえ。粘土は重いんですよ。

堂上 粘土が重いことは誰だって知ってます。

欄橋 最近は軽い粘土というのもあるんですよ。

先生 ……なんですか。

欄橋 かるかるラピッドという粘土ですね。

先生 かるかる……？

欄橋 軽くて、すぐに固まるという粘土ですね。

先生 紙粘土とは違うんですか？

欄橋 紙粘土とは違いますね。

先生 紙粘土も乾燥するからって、作業してる時は

欄橋 濡れ布きんを掛けてましたよね。

先生 ……そう。あれが面倒で、

欄橋 今でも濡れ布きんは必要かもしれませんが、かなりきめ細やかになってますから以前ほど

堂上 ねえいつまで粘土の話しとんの？いつまで粘土の話すんの！

先生 ……そういう、皆さんにとって大切な仕事をして下さってるんですよ。

欄橋 ……そういう楽器とか。

先生 ……そうですね。私の場合だと、今年度は地図帳とかもありますね。

欄橋 ……そうですね、今年度は、

堂上 年度の話になったからってウチが「ネンドの話はもういいよ」って突っ込むと思ったら大間違いで

すよ。ウチはそんな軽い女じゃない。

先生 ……軽い粘土もあるという話で、

欄橋 かるかるラピッドという粘土です。

堂上 また粘土の話すんの！粘土とか年度とか、もうどうでもいいんですよ。わかりますこのどうでもよ

さー！

先生 ……すいません、いつもは悪い子達じゃないんです。

欄橋 ……。

蓮華 納品業者じゃなくて私らは先生に頼んでるんです。お願いします。合唱部に入ってください。

先生 ……？

生徒達 お願います！

堂上 お願います！

先生 ヤダ。

蓮華 お願います。合唱部に入ってください！

生徒達 お願います！

堂上 お願います！

先生 ヤダ。

蓮華 お願います。合唱部に入ってください！

生徒達 お願います！

堂上 お願います！

先生 ヤダ。

間。

先生 ヤダ。

反町 なんなのさつきから！

生徒達 反町を制する。

反町 偉そうにさ、生徒がここまで頭下げてるのよ！何様のつもりよ！

堂上 窓の向こうを見て、

堂上 もうすぐ日が暮れる。この壁の向こうに男子が居るとしたら、きつと下校の時間…。

蓮華 ねえみいちゃん、出してよ。今すぐ外に出してよ！

水野 無理よ、風紀委員でも校舎の外には出られない。

反町 イヤよ、イヤよイヤよイヤよ！

城田 ♪シー！は幸せよー、さあ歌いましょうー！

城田 窓の外に向かって歌う。

不破 なにやってんのバカ！

不破 城田の肩をゆすり、

不破 早まつちゃダメーまだ早いわ！

城田 …(うなづく)。

堂上 おや、これは、なに？

堂上、掛かっているネクタイを見つける。

反町 こ、これは…！男子が自分の首を絞める時に使うと言われてる、ネクタイじゃない？

蓮華 あってるけど違いわ。

堂上 女子が毎朝男子の首を絞めるのよ。

蓮華 それもそうだけ違いわ。

水野 ネクタイがあるという事はもしかして…？

堂上 野郎が、ここに居た…。

城田 野郎…(廊下の先を見る)？

他の皆も廊下の先を見る。

堂上 キャンプ、みゆきを教えてちょうだい。

不破 みゆきは、やらしい事を連想するんじゃないの？

堂上 もうしない。ウチはどうかしていた。国民的アーティストみゆきにエロイイメージがある訳ない！

みゆき(めん！庄司みゆき(めん！

蓮華 私からもみゆきに謝ります！

水野 私も庄司に！

堂上 庄司みゆき(めん！

反町 ごめんなさい庄司みゆき！

蓮華 ねえ庄司みゆきって誰？！

水野 AV女優じゃん！しかもだいぶ前の！

堂上 え…？

蓮華 知らなかったの？中島みゆき。

堂上 中島、みゆき？

反町 ひどいわ庄司みゆきだなんて…。

堂上 庄司みゆきがAV引退してから歌ってるのかと思って、

不破 ドレミの歌の最初の音は、それぞれのその音階の音になっている。それをまず精進しましょう。精

進みゆきはそのあとよ。

水野 そんな歌手居ない。

蓮華 もう訳わかんなくなっちゃった。

城田 品川庄司。

蓮華 なんだと？！

堂上 ♪ドーはドーナツのドー。

蓮華 ♪レーはレモンのレー。

水野 ♪ミーはみんなのミー。

不破 ♪ファーはファイトのファー。

反町 ♪ソーは青い空。

城田 ♪ラーはラッパのラー。

生徒達 先生を見る。

先生 …もうダメだ、上の階に行きましょうか。

欄橋 はい…。

先生と欄橋 上手へ歩いて行く。

水野 …行くのね、さらに上の階へ。ここから先は命の保証はないわ。

堂上 …行きましょう。ここまで来たらもう後戻りは出来ない。七つの音が揃った時、ウチんらに怖いものはない。

生徒達 さあ、歌いましょう！

と歌いながら、上手に歩いて行く一同。

暗転。

／ 四階 ／

廊下。

男子1と2、その場でランニングをして汗をかいている。

ちよっと息を整えて制汗スプレーを吹き付ける。

腰には「4」のプラカードがくっついている。

下から、女達の歌うドレミの歌が廊下に反響してだんだんと近づいてくる。

二人、上手に去る。

やがて先生と欄橋、下からやってくる。

続いて生徒達。

城田 ♪ドーはドーナツのドー。

不破 ♪レーはレモンのレー。

堂上 ♪ミーはみんなのミー。

反町 ♪ファーはファイトのファー。

蓮華 ♪ソーは青いそら。

水野 ♪ラーはラッパのラー。

先生 あ、欄橋さん見て下さい、工作室ですわ。

欄橋 音楽室は？

先生 実は私、四階初めて来たんです。

欄橋 そうなんですか。

生徒達 (先生に向かって) ♪さあ歌いましょう。

先生 視聴覚室もありますね。

欄橋 音楽室は？

先生 この階は実習室ばかり。もしかしたらこの階にあるかもしれませんが、音楽室。

欄橋 はあ…。

城田 ♪ドーはドーナツのドー。

不破 ♪レーはレモンのレー。

堂上 ♪ミーはみんなのミー。

反町 ♪ファーはファイトのファー。

蓮華 ♪ソーは青いそらー。

水野 ♪ラーはラツパのラー。

先生 えーつと、(行こうとする)

堂上 先生。

先生 はい？

堂上 先生の番です。

先生 え？

生徒達 ♪さあ歌いましょう。

先生 …。古川先生って、女の人ですか？

欄橋 うーん…。

先生 ちよつと年が行った感じの？

堂上 先生。

先生 はい？

生徒達 ♪さあ歌いましょう。

先生 …。

生徒達 ♪さあ歌

先生 歌わないですよ。

生徒達 …。

先生 だから私、先生ですから…。

城田 ♪ドーはドーナツのドー。

不破 ♪レーはレモンのレー。

堂上 ♪ミーはみんなのミー。

反町 ♪ファーはファイトのファー。

蓮華 ♪ソーは青いそらー。

堂上 不破さん。

不破 なに？

堂上 この、「ソ」の歌詞なんだけど、こゝだけどうして「ラ」で終わってるの？

不破 …ら？

蓮華 ♪ソーは青い空…本当だ「ラ」で終わってる！これどういう事？

水野 「ソ」なのに「ラ」なの？それとも「ラ」なのに「ソ」なの？

反町 凄いわ、早口言葉みたい。

堂上 これもしかしたらどちらか一つで事足りるという事じゃない？

不破 じゃあなたに？あなたは部員を一人減らさないといけないと仰るの？

城田 じゃあ私お手洗い掃除行って来てもいいですか？

堂上 先生。

先生 はい？

堂上 先生はやっぱり必要ないみたいですね。

先生 …え？あ、ああ、そう？

堂上 先生、合唱部を辞めて下さる？

生徒達 お願いします！

堂上 お願いします。

先生 …いや、うん、入ってないんですけど…。

生徒達 お願いします！

堂上 お願いします。

先生 …なんで私が入りたくて入ったみたいな気分にさせられるのかな…。

堂上 先生、合唱部を辞めてえ。もういつまでなんにもしないのにやってんのぉ？私達中途半端でやってる訳じゃないんで、冷やかしか勘弁して下さい。

生徒達 お願いします！

堂上 お願いします。

先生 はい、辞めました。

堂上 よし、これで揃ったわ。ウチらは六人で七つの音を分担しましょう！

生徒達 はい！

城田 ♪ドーはドーナツのドー。

不破 ♪レーはレモンのレー。

堂上 ♪ミーはみんなのミー。

反町 ♪ファーはファイトのファー。

蓮華 ♪ソーは青いそらーはラツパのラー。

水野 ♪シーは幸せよ。

生徒達 ♪さあ歌いましょう！

堂上 いいねえ！

蓮華 いいよー！

水野 これよこれー！

先生 じゃあ行きましょうか。

欄橋 あのお、みなさんね、

堂上 あ、なんか納品業者さんが喋りますわ。はい、なんですかあ？

欄橋 「ド」の、城田さん？

城田 あ、はい。

欄橋 「ファ」の反町さん？

反町 あ、はい。

欄橋 音、ずれてます。

反町 …え？

欄橋 あと、「ド」の城田、「レ」の不破

不破 私が何か？

欄橋 「ミ」「シ」のドノウエ、

堂上 はい。

欄橋 「ファ」の反町、「ソ」のレンジに「シ」の水野。

蓮華 はい。

水野 はい。

欄橋 ややこしい。

堂上 …は？

欄橋 「ド」城田「レ」不破「ミ」ドノウエ「ファ」反町「ソ」レンジ「シ」水野 うーん、ややこしい。

堂上 これはウチんらがやりたい音を選んだ結果なんです。

蓮華 納品業者は納品するのが仕事でしょ？口は出さないで貰えますか？

反町 城田さんはなんか一番良い声してるし声大きいから、

城田 私はお手洗い掃除が好きなんで、ホントは「ド」じゃなくて「ト」が良かったんです。

欄橋 うん「ト」なんて音は無いからね。

先生 欄橋さん、もう放っておきましょう。私はもうこの部活とは関係ないんで、ね。

堂上 最初は私が「ド」がやりたいって言ったんです。「ド」はやっぱ最初の音だし、リーダーみたいだし、一番かっこいいから。そしたら

不破 「ド」が最初なんて誰が言ったの？「ド」の前には「シ」があるのよ。

水野 「シ」の前には「ラ」、

蓮華 「ラ」の前には「ソ」、

反町 「ソ」の前には「ファ」、

堂上 つて皆さん言うから私は「ミ」にしたんです。

不破 私は「ミ」の前には「レ」があるとは言わなかったわ。なぜなら音に優劣なんて無いから。

堂上 不破さん…。

蓮華 あの時凄くイイ事言ったのよ、不破さんは。

堂上 それで決まったんです。

反町 私もドノウエさんは「ド」の上なんだから、「レ」がいいんじゃないかと言ったんですけどね。

水野 あれは上手い事言ったなあとは思ったわ。でもイイ事言ったなあとは思わなかったの。

反町 そう。

水野 でもホント、上手い事言うなあとは思ったよ。

反町 ありがとう。

水野 ううん。

先生 ほらね、彼女達の話聞いてるとなんの話だかわからなくなってるでしょ、だから相手にしない方がいいんです。

欄橋 じゃあレンジさんは、「ソ」と「ラ」、二つの音をやるのね？

蓮華 …え？

欄橋 箱から楽譜を取り出し、

欄橋 ここに楽譜があります。これはヘルマン・ネッケ作曲「クシコスポスト」。

堂上 …へるまん、ねっけ？

蓮華 クシコスポスト…。

反町 みゆきは？

堂上 ちよつと待つて皆、今の聞いた？へるまんねっけのクシコスポストって、ナニか凄くやらしい事に違いないわ。そんな歌うたって誰かに盗撮されても知らないわよ。

欄橋 「クシコスポスト」口ずさむ。

不破 運動会だ…。

水野 全然やらしくない…。やらしいとはるか遠い位置にあるものね。

堂上 小学校の、徒競争だわ…。

蓮華 …あの頃はこんな高校生活を送るなんて思いもしなかった…。

反町 男子がたくさん居ました。

水野 好きな子にいいめられてさ。

蓮華 今思うとなんて勿体ない事してたんだろって思うよ。

城田 私はただ、お手洗いを掃除してただけなんです。

不破 大きくなったらアイドルになれるって本気で思ってたの私。

反町 神社の鳥居に抱きついて押し倒したりさ、

蓮華 そんな事はしなかったけどね。

反町 やってることは今と変わらないんだもん。

堂上 今もやってるの？

反町 気がつくかね。

堂上 ウチらは身体だけが大きくなって、世界はどんどん狭くなって行く。

先生 音楽やってたんですか？

欄橋 一時、先生を目指してたんです、音楽の。

制汗スプレアの煙が漂ってくる。

先生 だから納品業者に？

欄橋 これは家業なんですけどね。

先生 ああ…。

反町 ねえみんな、私はさつきからこの廊下に漂う無香料系の香りが気になってしかたがないんだけど

…？

蓮華 無香料系の香り？する？

水野 無香料なのに…、

堂上 そう言われると、なんとなく無香料系の香りが…うん、する！

蓮華 してきた！

反町 (クンクン) これは間違いない無香料の香りだ。

水野 無香料の香りは、

反町 それすなわち男子生徒の香り。

城田 …(クンクン)。

蓮華 近い！コレ近いわ！

堂上 この香りの強さからして、今さつきまでここに居たんじゃないの？

不破 歌よ！歌いながら歩いてきたからそれに引き寄せられてきたのよ。これが歌の力ですわ！

堂上 凄じやないの歌の力。

蓮華 歌います！私は喉から血が出るまで歌います！

堂上 私も出血します！

水野 じゃあ私も！

反町 私だって出血する！

不破 喉から出血するような歌い方は間違ってるわ。お腹から声を出せば喉から出血なんてしない。

生徒達、楽譜を見て、

堂上 …み、

水野 …し、

堂上 …み、

城田 …え？

反町 (城田の楽譜を指さし) …。

城田 あど…ど、ど

蓮華 そ、

水野 …し、

堂上 …み、

不破 れん？

反町 (指さし)。

不破 え？

堂上 …ダメだ、これ難しいよ、一人一音なんて逆に難しいよ。

反町 城田さんさ、あなた声良い癖に全然リズム感無いわよね。

城田 え？

反町 なんの為にお手洗い掃除してるかわかんないんだけど。

城田 私はお手洗いを綺麗にしようと思ってるんですけど…

堂上 不破さんもさ、偉そうに言ってる割にはものすごい音痴なのよ。

不破 なんですと？

反町 音痴。

堂上 あなたの音全然違うじゃないのよ。

反町 音痴。

不破 私が音痴だったらね、あんたらみんなうちよ。

堂上・反町 なんだあ！

欄橋 さあ練習しましょう練習。

水野 時間が無いんですよ私達には！

城田 私はやっぱりお手洗い掃除しか向いてないんです（去ろうとする）。

欄橋 ちよつとちよつと、

堂上 あなたそんなに下手くそなのによく合唱部を作ろうなんて言ったもんよね。

蓮華 工業高校でさえ男に相手にされなかった腹いせかなかだよごうせ。

不破 …。

蓮華 凶星だ。

不破 蓮華、許すまじ…。

蓮華 またすぐ叩く。風紀委員、この子暴力振ります！

欄橋 はい喧嘩しないの。

水野 やっぱり私達には無理なのよ合唱なんて。

堂上 監督、短時間でたいした努力もせずに上手くなる方法はありませんか？

先生 そんな方法あるわけないでしょう。

欄橋 そつねえ、

先生 欄橋さん？

蓮華 監督、私やっぱり、「ソ」と「ラ」、二つ出すの大変なんですけど。

欄橋 ほれみなさい。

先生 皆さん、納呂罌者さんと呼びなさい。

堂上 弱ったなあ、こりやあ前途多難だ。

生徒達、先生を見る。

先生 なに？

堂上 なに先生、合唱部に戻って来る気になったの？

先生 は？

堂上 しょうがないな。監督、どうか先生を許してあげて下さいな。

他 お願ひします！

堂上 ウチらに免じて、お願ひしますわ！

先生 は？

欄橋 しょうがないわね。

先生 欄橋さん？

堂上 じゃあ先生、また一緒にやろう。ね。

先生 バカじゃないの。ねえ私は先生。顧問をお願いされたのよ私は。

堂上 はい。

先生 その顧問をね、あなた達は勝手にクビにしたの。ね、クビにしたり、また一緒にやるとかっさ、

ちよつと自由すぎると思わない？そんな自分達の都合で他人を振り回しちゃいけませんよ。

堂上 …。

先生 社会では通用しませんよそんな事では。

堂上 …ごめんなさい。

先生 …。

堂上 ごめんなさい先生。

先生 …まあ…、わかってくれたらいいんですけどね…。

堂上 じゃあ合唱部に戻って来て。

先生 軽いなあ…。

堂上 だって先生だって合唱やりたいんですよ？

先生 うん、やりたいかやりたくないで言ったら、

堂上 うん。

先生 やりたくない。

蓮華 とか言ってやりたいんでしょ？

先生 うーん、やりたくない。

反町 とか言ってホントは？

先生 やりたくない。

水野 とか言って

先生 やりたくない。

不破 とか

先生 やりたくない。

堂上 ごめんなさい、戻って来。謝るから、ごめんなさい。

生徒達 ごめんなさい。

先生 …あのね、謝れば済むってもんでもないからさ、

堂上 お願いだからあ。戻って来てえ。こうやって謝るからあ。

生徒達 ごめんなさい。

堂上 ごめんなさい。

先生 …。

欄橋 やってあげたらどうですか？

先生 えー？

欄橋 やつぱり一人足りないし難しいですよ。

先生 欄橋さん…

欄橋 せっかくあんなにやる気になってるんですから、先生が助けてあげないでどうするんですか？

先生 …えー？

欄橋 ……ここまでやる気になっている彼女達を、今まで見たことありますか？

先生 ……だ、訳わかんないし…

欄橋 先生、世の中訳のわかる事はかりだったら、そんな世界は面白いですか？訳がわからない事があるから、人は成長するんじゃないんですか？可能性は、訳の分からないところから始まるんです。

先生 …。

欄橋 彼女達のやろうとしている事を、わからないというだけで否定するのは止めて下さい。

堂上 納品業者…。

生徒達、口ぐちに「納品業者」とつぶやく。

先生 …いつからそんな向こう側に行っちゃったんですか？

欄橋 彼女達は気づいていないんです、今の彼女達の衝動こそが、青春だと言ふ事を。

生徒達 納品業者ー！

欄橋 私からもお願いします、彼女達の助けになってあげて下さい。

堂上 お願いします、先生！合唱部に戻って来てえ。

生徒達 お願いします！

堂上 お願いします！

先生 …もお、わかりましたよ。

生徒達 いえーい！

先生 その代り、音は私に選はせてよね。

堂上 じゃあ先生「ラ」ね。

先生 選はせて！

堂上 だつてもう「フ」しか空いてないよ？

先生 私は…「ド」がやりたい。

堂上 「ド」はダメよ。もう城田さんが居るから。

先生 私は「ド」以外はやらない。「ド」はやつぱり、かつこいいから。

堂上 先生いい、音に優秀はないのよ？

先生 誰がなんと言おうと私は「ド」以外やらないからね。何度も言うけど私は先生なの。先生が「ド」じゃないとかつこつかないでしょ。

堂上 子供だよなあ。

蓮華 ひどいよそんな、後から入って来て勝手に「ド」の音をやらして欲しいだなんて、

水野 それはちよつと横暴ですよ先生。

反町 城田さんも何か言いなさいよ。

城田 じゃあ私「ラ」やります。

堂上 じゃあ決まりだ。先生は「ド」ね。

先生 しょうがないなあ。

不破 では私が「シ」をやるわ。

堂上 あれ？でも「シ」は、水野さんじゃない？

水野 じゃあ私、「レ」をやりませう。

堂上 凄いや、何このスムーズな展開。まるで始めからその音で決まっていたかのようなスムーズさだ。

欄橋 じゃあこれで決まりね！

生徒達 はい！

欄橋 いちに、いちにさんし！

欄橋が指揮をして、「クシコスポスト」を歌いながら一列に行進して行く一同。
そのまま上手へ消えていく。

／ 五階 ／

下手から、男子1が「5」のプレートを持って出てくる。

一行は歌いながら下手から上手へ行進していく。

列の最後に男子2が付いてきている。手には「6」のプレート。

／ 六階 ／

ロープを移動させて、舞台前前に張るのは男子二人。

こうして一行の目の前には立ち入り禁止のロープが何重にも張られている。

客席側が正面の構図。

欄橋 ストップストップ。…これは、なんですか？

先生 え？

欄橋 行き止まり、みたいなんですけど。

先生 ああ、

ロープには「立ち入り禁止 学校長」の札が掛かっている。

欄橋 この先は？

先生 屋上、ですかね。

欄橋 ああ…。

先生 …（生徒達を振り返り）どう、しますか？

堂上 …え？

先生 行き、ます？屋上。

城田の隣に男子が一人立っている。

城田 ……！

男子一人、ぺこりと頭を下げる。

城田 ……いっも。

堂上 …そりやまあ、先生が行くって言うなら。

先生 …え？

堂上 だってウチらはこの学校の生徒ですもの、校則は破れませんよ。

先生 いやもう充分破ってますよ。

水野 先生、どうやら私達にはここが限界みたいです。やっぱり屋上には登れない。だって私は今まで校長室に呼ばれて戻って来た生徒を一人も知らないんだもの。

先生 …。

水野 先生はいいですよ、先生だから。

先生 先生だってそんな…。

水野 危険を冒してここまで登って来たけど、一度も男子とすれ違わなかった。

城田 …（もう一度男子を見て、目をこする）。

先生 そうだ、もしかしたら屋上で男子がうじうじなんか語ってるかもしれないよ。

蓮華 何その光景、気持ち悪いよ。

反町 気持ち悪いよ！

堂上 先生はどうして男子の事をそんな貧乏言うんですか？

先生 だってなんか良く語ってるでしょ、夢とか、

蓮華 先生は男が嫌いなんだよ。

水野 女が好きなんですか？

反町 毎日早く家に帰って何やってるんですか？

先生 じゃあもう、帰りますか？

皆…。

城田 …（口をバクバク言わせている）。

先生 帰りましょうか。先生だってね、ただの先生だからさ、公立じゃないんだからね、いつクビ切られるかわからないだし、うん、

欄橋 ちよつともお何言ってるの？あんた達合唱したいんでしょう誰かに聞かせたいんでしょうだったらこんな壁の中で歌うてもしょうが無いじゃない、屋上で歌いなさいよ屋上で。

堂上 あなたは、ただの納品業者だからそんな呑気な事が言えるんですよ。

水野・蓮華・反町 そうよそうよ。

欄橋 女の子でしょ！一度決めた事をごちやごちや言ってるんじゃないの！

堂上 …。

欄橋 あんたら歌うって言ったじゃないの。いつもヒトのせいにしてると、男に頼って生きて行くようなダメな女になっちゃうわよ。いい？どっ行ったって校長みたいな上司はいる。そういう上司を見返してやろうとは思わないの？ああ、所詮口だけなのね。あんたらみたいなのは卒業したって結局なんにも出れないで年をとるのよ。いつまでもビクビクして過すがいいわ。

堂上 …ママ。

「マザー…」「マミー…」「マアム」などと口ぐちに言う他生徒達。

欄橋 あんたらみんなまだ途中、なんにも終わってないのよ。

堂上 …うん。

欄橋 どうするの？

不破 私は、行くわ。

不破、ロープを外す。

水野 不破さん！

不破 私は転校生だからね、校長には会ったこともないのよ。

水野 あなたという人はなに、男らしいにも程があるわ。

先生 よし、行くか。

先生もロープを外す。

水野 先生！

先生 この先には、皆さんの見たがっていた景色がある。…それを見たらこっそり帰りましょう。

水野 知らない、私は知らないからね（目を塞ぐ）。

反町 どうする？堂上さん。

堂上 そりゃあ先生がウチらを強制的に連れて行く形になるんだからウチらにはなんの責任も無いとは思うよ。

先生 さあご覧なさい！壁の向こうが見えます。何が見えますか？…何が。

生徒達 …。

背伸びをするように見ていた生徒達だったが、ゆつくりと肩の力が抜けていく。

欄橋 椅子を並べて、

欄橋 さあ皆さん、歌いますよ。

堂上 え？

欄橋 ほら、何やってるの？

堂上 …でも監督、見て下さい。

水野 …なんの為の壁だったのよ。

欄橋 良かったじゃない、なんにも無くて。

堂上 …。

欄橋 この先にはあなた達の想像もつかないくらい、たくさん男子が居るじゃないの。皆…。

欄橋 聞かせてやりなさいよ、あんたらの合唱を。

城田 シー！

不破 バカ！どうしてあなたはいつも一人だけで！

城田 だって、だって歌を歌うと男子が現れるという話は本当なんです。

不破 わかった、わかったから。

城田 だって…

不破 わかったって！

城田 …。

不破 …レンゲさん、水野さん、反町さん、城田さん、ドノウエさん。私達はついにここまでやってきたわ。

生徒達、うなづく。

不破 もつこまで来たら、下手くそだっていいですよ。歌ってやりましょう、精一杯大きな声でさ。

蓮華 …聞いてると良いね、あなたの好きな人。

不破 もう忘れたわ、そんな人…。

不破 椅子に座る。

蓮華 じゃあこれからあなたを好きになる人が。

反町、座る。

蓮華も城田も座る。

堂上 …もう誰に聞かれたってかまやしない。

堂上、水野の肩を叩き、座る。

水野、強くうなづく座る。

先生 …。

先生も座る。

欄橋、箱から新たな楽譜を取り出し、配る。

欄橋 これは、ベートーヴェン「喜びの歌」。これで皆さんへの最後の課題とします。

反町 喜びの歌…。

堂上 「ベートーヴェン」、うん、この人なら大丈夫。

欄橋 一度は聞いた事がある曲だと思います。

皆 (うなづく)

欄橋 じゃあ行きますね。いち、にの、さん、はい！

堂上 ミー、ミー

反町 ファー

蓮華 ソ、ソー

反町 ファ

堂上 ミ

水野 レ

先生 ド、ド

水野 レ

堂上 ミ、ミー

水野 レ、レー

堂上 ミ、ミ

反町 ファ

蓮華 ソ、ソ

反町 ファ

堂上 ミ

水野 レ

先生 ド、ド

水野 レ

堂上 ミ

水野 レ

先生 ド、ド

水野 レ、レ

堂上 ミー！

先生 ド！

水野 レー！

堂上 ミ！

反町 ファ！

堂上 ミー！
先生 ド！
水野 レー！
堂上 ミー！
反町 ファー！
堂上 ミー！
水野 レー！
先生 ド！
水野 レー！
蓮華 ソー！
堂上 ミー、ミー！（立つ・すぐ座る）
反町 ファー！（立つ・すぐ座る）
蓮華 ソー、ソー！（立つ・すぐ座る）
反町 ファー！（立つ・すぐ座る）
堂上 ミー！（立つ・すぐ座る）
水野 レー！（立つ・すぐ座る）
先生 ド、ドー！（立つ・すぐ座る）

生徒達 自分の音を発する時だけ立ち上がる。

先生も一緒になって立ち上がってしまう。

欄橋は、その様子を見届けてから、黙って屋上を去っていく。

水野 レー！
堂上 ミー！
水野 レー！
先生 ド、ドー！
水野 レ、レ！
堂上 ミー！
先生 ド！

水野 レー！
堂上 ミー！
反町 ファー！
堂上 ミー！
先生 ド！
水野 レー！
堂上 ミー！
反町 ファー！
堂上 ミー！
水野 レー！
先生 ドー！
水野 レー！
蓮華 ソー！
堂上 ミー、ミー！
反町 ファー！
蓮華 ソー、ソー！
反町 ファー！
堂上 ミー！
水野 レー！
先生 ド、ドー！

皆 大声で歌った達成感に浸っている。

不破 …ねえみんな、今の歌、私一言も発してないんだけど…、
城田 私です。

堂上 あなたの理屈はよくわからないわ。

水野 (胸にバッジをつける) さて皆さん、風紀委員として言っておきますが、ここでの事は他言しない方がいいです。無事に卒業したいならね。

蓮華 やっぱり嫌な奴。良かった、友達に戻らなくて。

皆 立ち上がる。

先生 ねえみんな。明日もここで、練習しない？

堂上 ……え？

先生 私達は合唱部でしょ。練習しないと、届かないわ、もっとと遠く。

堂上 ……しようが無いなあ、先生がそんなに言うなら、いいよ。

蓮華 私も練習なんかしたくないけど、先生の命令なら、いいよ。

反町 別に男子にちやほやされたいって訳じゃないの、私は純粋に合唱が上手になりたい、それだけ。

堂上 わたくしだってそうですわ。

蓮華 私だって。

不破 よしみんな、明日もここで、また会いましょう。

水野 じゃあ私はまた、あなた達を取り締まりに来ることにします。

堂上 じゃあね先生、早く帰りなさいよ。

皆 出て行く。

先生 なんで私が残りたいくて残ってるみたいな気分させられるのかな…。

女子二人 立っている。

先生 あなた達も、早く帰りなさいよ。高校生なんだから。

先生 出て行く。

男子二人、鼻歌を歌っている。

暗転。

／ 次の日 ／

屋上、夕方。曇天。

欄橋が一人、ベンチに座っている。

楽譜を見ながら♪「天国と地獄」を口ずさんでいる。

先生、やって来た。

欄橋 これはちょっと難し過ぎるか。

先生 あ、欄橋さん、昨日はどうして先に帰っちゃったんですか？聞いて貰いたかったなあ。

欄橋 今日は、いい天気ですねえ。

先生 今日、いい天気ですか？

欄橋 雨が降ってると思えば、いい天気ですよ。

先生 はあ。

欄橋 ♪「天国と地獄」を口ずさんで。

先生 どうしたんです今日は、そんな…？

欄橋 合唱とはね、その発想は無かった。また一つ可能性が増えましたね。

先生 え…？

欄橋 楽しかったですよ、なかなか。あの子たち。

先生 …生徒達、遅いですわ。何してるのかしら…。

欄橋 それと校則違反は、別なんですけどね。

先生 ……あのお？

欄橋 口ずさんでいる。

男子一人やってきて、キョロキョロと見回す。

先生 あ…。

欄橋 ごめんなさいね、合唱部は、解散しました。

先生 え？

男子、黙って帰る。

欄橋 男子が居ない訳じゃないから、女子校じゃないですね。

先生 ええ…。

欄橋 行きましようか、雨降りそうだし（立ち上がる）。

欄橋 去る。

先生、茫然と見送り、

先生 欄橋さん…？

「パリーン」とガラスが割れる音。

どこからともなく男子だけの合唱「やすかれわがこころよ」が聞こえてくる。

先生 …。

先生、その先をずっと見ている。

終

クシコスポスト

ヘルマン・ネッケ

トランプ0

ミ シ ミ ミ ド ミ ミ ソ# シ ミ ミ ラドミ ラシド ミ
 ファ ラ ミ レ ファ ド ミ シ ミ ド シ ラ
 ラドミ ラシド ミ ファララ ミ ミレ#ミファソファソラ
 シ ファ#シ・ラシ ミ/ソ ミソシミ ララド/ララミ/ラララ
 レ/ララファ/ララララララ ミミファ#ソ#ミシ ララシドラミ
 ララド/ララミ/ララララ レ/ララファ/ララララララ ミラミドミラド
 シ/ソ#・レ・ミ ミソ#シ・レ・ミシ ラド ラドミラ ド シ シラ
 ソ ファ ミ レ ドレミファソファ#ソミ ファソラシドシドラ
 シトレソシミソドミ ファラドファラドファラ ドレミファソファ#ソミ
 ファソラシドシドラ ドミラミミラドミ シミソ#シラ ラドミラ

ファ ミ レ ド シラ ソ レ ソラシレ
 ド ファソラド ファ ミ レ ド シラ ソ
 ファミファレドファラド レ ミ ファ ファラドファ ミシミドミ
 ミ ミソ# シ ミ ミ ラドミ ラシド ミ ファラミ
 レ ファ ド ミ シ ミ ド シラ ラドミ ラシド ミ
 ファラミ ミレ#ミファ#ソファソラ シファ#シ・ラシミ/ソ ミソシミ
 ララド/ララミ/ララララ レ/ララファ/ララララララ
 ミ ミファ#ソ#ミシ ララシドラミ ララド/ララミ/ララララ
 レ/ララファ/ララララララ ミラミドミラド
 シ/ソ#・レ・ミ ミソ#シ・レシ ラド ラドミラ ファ/ラ・シミ/ソ#・シラ/ド・ミ

【上演記録】 2013年4月19日～22日 七ツ寺共同スタジオ

作・演出／平塚直隆 舞台監督／柴田頼克 照明／今津知也 音楽／青井美都 音響／田内康介・覚前遥

この戯曲の著作権は、作者である平塚直隆にのみ帰属するものです。
上演許可あるいはその他のお問い合わせは、作者の所属する「オイスターズ」どうぞ。

■ オイスターズ ■

ホームページ

<https://oysters.official.jp>

メールアドレス

theatrical_unit_oysters@yahoo.co.jp